

お知らせ

会員の皆様には

委員代表 石橋信彦

拝啓、初夏の候、会員の皆様には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本研究会は設置以来6年を経過いたしました。これまでのところお蔭様で設立当初計画の諸事業を一応滞りなく行って参りました。これはすべて会員の皆様の御理解と御支援の賜物と深く感謝申し上げます。ところで世話人会におきましては、かねてから本研究会を公的に認められた団体として運営した方が今後の会の発展などのためにベターであり、そのためには日本分析化学会の研究懇談会になった方が望ましいと大方の意見がまとめられていました。このような世話人会の意向にもとずきまして日本分析化学会に研究懇談会の設置をお願いしておりましたところ、去る本年3月の日本分析化学会理事会で御承認をいただきましたので、ここに御報告申し上げます。

以上により、本会の正式名称は本年4月1日から社団法人日本分析化学会フローインジェクション分析研究懇談会となりました。本研究懇談会規約は次ページのようであります。このなかで、特別賛助会員は、旧FIA研究会の維持会員に相当します。これは、維持会員という名称では、日本分析化学会の維持会員と混同するとの理事会での御意見に従って変更した訳であります。団体会員としての資格はこれまでの研究会の通りで変更はありません。会誌名はFIA研究懇談会会誌といたしました。英文名は海外にすでに知られておりますので、従前通りにいたしました。運営の方は暫定的ではございますが、世話人会の方々に委員に御就任いただいた上で行っていくつもりでございます。

以上のように衣替えはいたしました。本会の運営並びに事業はこれまでの研究会とほぼ同様に行っていくことになっておりますので、会員の皆様、何卒御了承下さいますよう、又、今後とも御指導御支援賜りますようお願い申し上げます。

敬具

フローインジェクション分析研究懇談会規約

(名称)

1. 本研究懇談会は、社団法人日本分析化学会フローインジェクション分析研究懇談会と称する。

(目的)

2. 本研究懇談会は、フローインジェクション分析法に関する学術と応用技術の進歩、普及をはかることを目的とする。

(事業)

3. 本研究懇談会は、前項の目的を達成するため次の事業を行う。
 - 1) 講演会等の開催(年2回以上)
 - 2) 会誌の発行(年2回)
 - 3) その他本会の目的を達成するための事業

(運営)

4. 本研究懇談会に委員長と委員若干名を置き、本会の企画及び運営を行う。

(会員並びに会費)

5.
 - 1) 本研究懇談会の会員は個人会員及び団体会員(特別賛助会員及び賛助会員)とし、原則として日本分析化学会の会員とする。
 - 2) 会費
 - 2.1) 個人会員 年額 3,000 円
 - 2.2) 団体会員 特別賛助会員 年額 10,000 円、100,000 円以上
賛助会員 年額 7,000 円

(会計)

6. 本研究懇談会の事業は、本部補助金及び会費並びに寄付金などにより行う。

第14回フローインジェクション分析講演会（予告）

主催 日本分析化学会フローインジェクション分析研究懇談会
共催 日本分析化学会近畿支部
会期 12月8日（土）
会場 京都工芸繊維大学 大学会館
連絡先 〒606 京都左京区松ヶ崎 京都工芸繊維大学繊維学部
佐藤 昌憲 （電話075-791-3211, 内線700）

詳細は日本分析化学会機関誌 *ぶんせき* の会告欄でお知らせします。

編集後記

<＊>編集の主軸である今任委員が4月から海外出張中です。途中で引継いだ編集業務がはかどらず、本号の発行が遅れてしまいました。また予定していた記事（総説）の掲載もできずに申し訳ございません。

<＊>フローインジェクション分析研究会が日本分析化学会フローインジェクション分析研究懇談会に組織替えすることになりました。その経緯については<巻頭言>や<お知らせ欄>をご参照下さい。本誌の英文誌名は従来どうりで変更なし、和文誌名を[FIA研究懇談会会誌]へ変更、巻号数は引き継ぐことになりました。

<＊>Analytica Chimica ActaのEditor, Townshend氏から、熊本におけるFlow Analysis Vの開催について、激励と歓迎の記事（指標欄）をいただきました。

<＊><研究報告>は3編とも海外からの投稿。3連洋食よりもスシを食べたいとの読者の声がある。筆者も同感であり、やはり2和1洋がよい。和文での投稿を歓迎します（原則として、英文または和文による随時自由投稿で、依頼方式ではありません）。

<＊>FIAに関して常に先駆的研究の源泉であるスペインからの<海外レポート>; 活況が感じられます。

<＊>連載中の<学会情報>と<文献情報>; 地味ながらも非常に関心度が高く好評のようです。情報収集と取捨選択の仕事は、労力は勿論のこと精神的にも苦勞が多いと思います。おそらくFIAと隣接分野（特にHPLC）との境界線をどこに置くかが大きな悩みの種でしょう。FIAとHPLCの関連は、Twins or Siblings? (Analyst, 115, 475(1990)) を参照, またはその他の相関なのかと国の内外を問わず異論が多いようです。

<＊>今回も<トピックス>への投稿はなし。駆け込みで、にわかづくりの駄作を出品。

<＊>本誌も創刊から7年目になります。固定した少人数で編集すると、手ぬかりだけでなく、どうしても編集内容の偏向やマンネリ化は避けられません。そろそろ編集委員を交替または増員して（広域、分野別）、新鮮なアイデアと活力を導入していただきたいと希望します。（与座 範政）